
海の神 ～ 漁師の家に産まれた私～

藤井 ち子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海の神 ～漁師の家に産まれた私～

【Nコード】

N8791A

【作者名】

藤井 ち子

【あらすじ】

実話です。なぜ私が産まれたとき、父は病院に居なかったのか。

「実話」

私が生まれたとき、嬉しかった？

私は他の家庭が羨ましかった。家族みんなで誕生日を祝ったり、旅行へ行ったりする。

うちは貧乏な訳ではないのが、父の仕事の都合で、そんな行事なんて無かった。

小学生のときの休み明けに、クラスメイトのほとんどが、

「キャンプに行ってきた」

とか、

「家族で遊んだ」

と、日記に書いていた。私はそんなクラスメイトがとても羨ましかった。

でも私の家族は温かかった。家庭内の行事を除けば、どこにでもいる幸せな家族だった。

私が小学6年生になったある日、自分が生まれたときのことを、母に聞いた。

「うちが生まれたときどうだった？」

すると母は笑顔で答えた。

『本当に辛かったけど、産まれてきたお前を見たら、嬉し涙が出てきたよ。』

その時私は、母の子で良かったと心底思った。

しかし父は、私が産まれたとき、病院には来ていなかったという。母は一人で私を産んだそうだ。

でも私は

「父は漁師だから、きつと病院に行きたくても、仕事で行けなか

ったんだ。」
と思った。

漁師は一度海に出たら、直ぐには戻ってこれない仕事だから、仕方ないと思っていた。

しかし私が産まれ時間は海に出ているはずの時間ではなかった。母に聞くと、父はその頃自宅にいたとの事だった。

私は父に無償に腹が立った。母が一人で頑張っているのに、父は何をしていたんだと。

それから私は父に対して、冷たい態度をとっていた。
父は最低だ…。

しかしそれから2年後。

「うちが産まれたとき、父は嬉しくなかったの？」
と私は母に聞いた。

すると母は驚きつつも答えた。
『嬉しかったに決まってるでしょ。』

そして2年前から気になっていた事を聞いた。
「じゃ、どうして父は病院に来なかったの！」

『魚が捕れなくなるからだよ。海の男が”結婚”したり、”子供”が産まれたりすると、その年の漁獲高が悪くなる事があるんだよ。海の神は”女”だからね。』

私は泣きたくなかった。今まで散々父に冷たい態度ばかりとっていた。私は馬鹿だ…。

父と母は昔、私達こどもが産まれてきたら、楽な思いをさせてあげたいと、出稼ぎに行った事もあったということ、今は亡き祖母に聞いた。

私は父に謝った。そして感謝をした。
「ありがとう。」

今父は、ここ青森を抜け出し、千葉県で船頭の右腕として働いている。

父へ。

今日も体に気を付けて、仕事頑張ってください。
私は、父の子で本当に良かったです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8791a/>

海の神 ~ 漁師の家に産まれた私 ~

2010年10月30日08時28分発行